

芳賀の史跡めぐり

-15-

民間の篤学者 佐藤助吉

東京大学理学部植物学教室、本田正次氏（昭和天皇の植物研究の相手を務める）著『日本列島に「民間の篤学者 佐藤助吉」と書かれた植物愛好家佐藤助吉は、一八八九年（明治二十二年）五月十七日、鳥取町に生まれました。明治四十四年三月、群馬師範学校を卒業し、芳賀小学校（11年間）を振り出しに上川淵小学校、桂萱小学校、時沢小学校、敷島小学校、新里小学校の訓導、沢入小学校、花輪小学校、細井小学校の校長を歴任し、一九四三年（昭和十八年）三月末退職までの32年間、子弟の教育にあたりました。しかし、専門的な植物研究の才能を囑望されて、県立勢多農林学校の生物科担当講師として昭和十九年二月

二十日から再び教壇に立ち、昭和二十五年八月八日に死去（満60歳）するまで、趣味と本業とが一致して好きな植物採集や腊葉（さくよう）押し葉の意）に専念できる幸福な生活を送りました。榮譽を願わず、ひたすら好きな植物研究に没頭した孤高の人です。その採集になる腊葉標本はおびただしい数にのぼりました。このような植物研究に一生を捧げるようになったのは、芳賀小学校に在職当時、地衣蘚苔の研究家角田金五郎の教えを受けたことにはじまり、学校の放課後や休暇等を利用して郷土の植物採集を行い、更にその研究は高山植物に及んでいきました。採集の目的をもって登山した主な山は、赤城山10

回、榛名山5回、妙義山3回、足尾14回、木曾駒1回、北は北海道から関東甲信越の山々を何回となく訪れました。植物標本作成に際して最も大切なことは花のあることで、花期の研究とともに、花が得られるまで何回も踏査採集にあたりました。植物採集の結果、新品種の発見があつて学会に発表された主なものをあげると

1. 三葉の松（みつばのみつ）

昭和十五年六月、勢多郡東村袈裟丸山において発見。東京大学理学部植物学教室吉沢助教が解剖学的に研究を進め、赤松の葉の構造上の一変異現象として「みつばあかまつ」と新称することに



みつばのみつ

なつて学会に発表されました。（通常二葉）その姿から「夫婦和楽・家内安全」を象徴。

2. 庚申草（食虫植物）の群生地

「こうしんそう」は明治二十三年、栃木県庚申山において三好学博士が発見し「こうしんそう」と名付け、栃木県以外には生育していない珍草として天然記念物に指定されましたが、袈裟丸山の標高1400m位の所に、長さ100m高さ30mの岸壁があつて、その数か所で見事に自生しているのを昭和十五年六月に発見し、県の天然記念物に指定され保護さ



こうしんそう

れました。日本固有種で絶滅危惧Ⅱ類に指定。

3. キソコマフタバラン

昭和十八年八月、木曾駒ヶ岳で「三葉のコフタバラン」を採集し、翌年一月十八日に標本を東京大学の本田正次氏に送って鑑定を乞うたところ「キソコマフタバラン」の新品種と認定され、昭和二十一年十月三十日に学会で発表されました。

芳賀地区には、植物に情熱を捧げる高邁な精神をもつ二人の植物愛好家がいいます。歩んだ道もほとんど同じようでした。

生涯学習奨励員
中山 洋子



フタバラン

2月の主な行事予定

2月16日(日)芳賀体協スマイルボウリング大会

(芳賀小体育館)

